

クローズアップ インタビュー



瑞宝双光章受章者 神谷小三郎氏 (75歳)

受章の感想

この度、受章の栄に浴しまして身に余る栄誉を賜り誠に光栄に思っております。40年あまり市役所にお勤めをさせていただき、これも偏にそれぞれの先輩の皆様のご指導、また、同僚の皆さんのご支援の賜物と感謝しております。今後は、この栄誉に恥じる事のないように一層精進してまいりたいと思います。

仕事について きっかけ

中学生の頃はまだ、将来自分が進む道というのは考えたことがありませんでした。

主な経歴

昭和24年 高浜町役場入庁
昭和49年 地方自治功労賞受賞
昭和56年～平成2年 高浜市収入役
平成2年～平成4年 高浜市助役
平成10年～ 行政書士事務所経営

平成21年春の叙勲が発表され、呉竹町在住の神谷小三郎さんが瑞宝双光章を受章しました。神谷さんは市役所の職員として勤務された後、助役として市政運営に力を注がれ、現在も行政書士として活躍しています。受章の喜びや仕事についてお聞きしましたので紹介します。

しかし卒業を迎える頃、亡くなった父も勤めていた町役場に就職してはどうかという母の助言を受け、高浜町役場への就職を決めることとなりました。

苦労

国道419号線の新設に携わりましたが、市民の理解を求めると言うことがとても大変でした。議会で議決されたのですが、計画を執行する、などということはできません。必要な道路だと分かっているにもかかわらず、解決しなければならぬ多くの問題があります。

市民の理解を得られないままスタートしてしまうと、計画の途中で問題が発生し、足踏みをしてしまふことになりかねません。計画の段階で皆さんの理解を得ることが、重要であると思えました。

喜び

自分の代で大きな事業（高浜中部特定土地区画整理事業）のスタートを切れたことを誇らしく感じています。業務が終わった後に、関係者の方々と何十回と説明会や話し合いを行いました。担当の職員も粘り強く取り組んだ結果が、現在の国道419号線です。

国道ですので、いつかは県が着手してくれるかもしれませんが、しかし、やはり地元のことなので、少しでも早く事業を進めたいと思

いました。県の手伝いをするのではなく、市が主体の事業であるという意識で前向きに取り組めば、県の信頼にも繋がります。県との信頼関係は、事業の要望を理解してもらうためにも必要です。後任の方には、信頼関係ができた良い状態で引き継ぐことができました。

これからの生活

囲碁が趣味ですが、行政書士会の役員の仕事などもありますのでなかなか趣味に回す時間がありません。

しかし、仕事で外へ出て皆さんと会い、言葉を交わすことで緊張感が生まれ、その程よい緊張感が日々の充実や健康に繋がっているのだと思います。

若い人へ

働いている人たちは、自分は何をやらなければいけないかという自覚を持ってください。自分の役割を果たせば、自ずとチームワークができてきます。自分だけが責任を取らなければいけないと萎縮して仕事をするのではなく、同僚や上司と協力しあい、チームとして仕事すれば、それが結果に繋がると思います。